

平成24年度 社会福祉法人南町保育会 事業報告書

1 総括

大震災及び福島第一原子力発電所の事故から2年経過したが、入所児童数の減少など運営上の支障はない。

会津若松市では各保育園で購入した食材を検査（月1回）していることもあり、残留する放射性物質を心配する保護者はいない。ただし、多摩堤保育園やさくら中央保育園の中にはごく少数であるが、食材の産地にこだわる方がいる。

南町保育園とどんぐり山保育園は、年度初めより定員を超え、受け入れ限度いっぱいの子が在籍した。市内の出生数は減り続けているが、保育所の入所希望者が減少している様子はない

多摩堤保育園については、年間を通して定員が欠けることはなかった。この地区は入所希望が多く、決定までの倍率は高いものがあった。さくら中央保育園についても、3歳未満児は定員を上回る希望があり、25年度・26年度に定員増にすることになった。

ただ、現状に甘んじることはなく、24年8月に子ども・子育て関連法案が成立したこともあるので、国の動向に注意し、法の施行までにその対応を考えなければならない。

今年度は次の四つの目標を持って事業の運営をしてきた。

- 1 保育士の定着化
- 2 人事考課による給与制度の研究
- 3 さくら中央保育園運営の補助
- 4 公立保育所民営化の研究

1について、南町保育園では、24年度は3名の退職。どんぐり山保育園は保育士と栄養士各1名が退職。

多摩堤保育園では、職員が一人欠員のままでスタート。補充に短時間パートでやりくりした。

さくら中央保育園は、年度末の退職者はなかった。

2については、実施することができなかったが、25年度から実施することにした。

3については、予定通り実施することができた。

4については、首都圏での保育士確保がかなり困難になってきており、民営化に応募するのが難しくなっている。

【保育事業推進】

法人の理念と保育理念に基づいた保育事業を下記のとおり推進してきた。

○ 満足度調査

今年度も南町保育園、どんぐり山保育園共に株式会社ポラリスに依頼し、総合評価で十分に満足・ある程度満足の合計は前者94%、後者84%であった。多摩堤保育園もポラリスで満足度調査を行い、十分に満足・ある程度満足の合計が85%であった。民営化委して4年になるが保護者の保育内容への理解と職員への信頼感の深まりが感じられる結果であった。

さくら中央保育園については、第三者評価を受審したが、結果は良好であった。

各園共に調査結果については、保護者に情報を公開し、評価の低い項目については職員会議等で検討し、改善した。

【保育内容】

・研修について

南町保育園・どんぐり山保育園は、行政及び保育団体の研修に積極的に参加し、またコダーイ芸術研究所講師を会津に招いて学習した。

多摩堤保育園についてもコダーイ芸術研究所講師を招き保育室で直接指導を受けた。又、大田区が主催する研修にも積極的に参加した。さくら中央保育園も多摩堤保育園同様の研修を行ったが、田代常務理事から保育内容等について様々な助言を得た。

各園共に年度末には、すべての保育士にも共通して求められる標準的な知識や技術のレベルを明確にしておく必要があるので、共通理解をした。

2 財務全般

○主な収入である利用料収入・運営費収入・経常経費補助金収入の合計（4会計合算）は586,375千円となり、前年度（467,760千円）と比較し、25%増収となった。さくら中央保育園の運営費収入が加算されたためである。

なお、福島県と東京都との差額は52,923千円あり、東京都の運営費収入と経常経費補助金収入が大幅に多いことが分かる。

経常収入に占める人件費の割合は65%で、南町は74%、どんぐり山は67%、多摩堤は71%と3園はほぼ同水準であるが、さくら中央は58%と低い。

さくら中央の人件費割合は若い職員が多いことによるもので、今後増加していくので様子を見る必要がある。

また、当期資金収支差額+積立金支出 \geq 経常収入計 \times 5%という法人の目標は4保育園会計とも達成され、当初計画どおり積立金を計上することができた。今後、保育士の定着を図りながら、適正な給与水準と、経費の配分を考えしっかりと予算管理を行っていきたい。

こどもクラブについては、24年度も会津若松市からの委託料の範囲内で運営することができた。

地域子育て支援拠点事業についても赤ちゃん広場（南町）、なのはな（どんぐり山）ともに、国の補助金の範囲内で事業を運営することができた。

3 各保育園の事業計画の評価

南町保育園事業計画の評価

① 幼保一体化の研究
② 繋がる保育（0．1．2歳児、幼児）
③ 課業研究（美術）
④ 保育の実践研修（ビデオ等）
⑤ わらべうた園内研修の充実

- ① 認定こども園は社会保障・税の一体改革の柱として昨年5月から国会審議がなされ、8月10日に子ども・子育て関連3法が可決成立し、同22日に公布され、平成27年度施行になった。新制度の具体的運用に関する基本方針や認可・運営基準、支給認定（保育の必要性の認定）基準、公定価格、幼保連携型認定こども園保育要領等の検討は、4月9日内閣府に設置された「子ども・子育て会議」で行われることになった。

国は、保育園が認定こども園に移行するような政策を行うので、法人としても国や保育団体が

らの情報を今後も注意深く収集する必要がある。

- ② それぞれの年齢クラスの保育が繋がるようにしたいということで、今年は食事を取り上げたが、それをわかり易くまとめることができた。今後は、見直しを図りながら、新人研修等に活用したい。
- ③ 幼児3クラスで「絵具に慣れる」というテーマで、1年間取り組んできた。子どもの作品については、専用コーナーを設け掲示した。
- ④ ビデオ研修を行うことはできたが、一部の職員での取り組みに終わってしまった。
- ⑤ 研修担当者を設けて、月に1～2回研修することができた。

どんぐり山保育園事業計画の評価

① 業務手順書の見直し、改善
② 3歳未満児保育：講師による指導と環境設定と大人の動き
③ 幼児保育：講師による指導、公開保育（特に美術指導）
④ 地域との連携強化 ・全戸訪問事業の推進・ボランティア（畑・縫い物）
⑤ 樹木の整備・冬期間の正門通路除雪対策・園庭遊具の整備と拡充

①係ごとに分担しながら、見直しを行うことができたので、最終段階に来ている。

② ③実際に自分たちの保育を見てもらうことで、改善点を学び、保育士が意識することで、子どもが変わる様子が見られた。④2種類のボランティアの方たちと継続的に仕事を進めることができています。市社会福祉協議会からどんぐり山保育園での長年の畑ボランティア活動が評価され団体が表彰された。⑤冬期間の門を作り安全な出入り口を確保することができた。園庭遊具に関しては、戸外用トランポリンとゆりかごスイングを入れ、揺れることで身体の調整力をつける遊具を入れることができた。

多摩堤保育園事業計画の評価

① 保育の質の向上
② 食育の充実に向けて（年長クッキング保育・野菜栽培・食材への興味を高める）
③ 保育記録の取り方について（連絡帳・日誌・指導計画・児童票）
④ 子どもの体力向上に向けて：書類の整理、職員へのマニュアルの周知
⑤ 地域との連携を深める（地域通信）

外部研修に積極的に参加し会議等で実践報告。特に乳児会議では各クラスビデオを持ちより学びあった。保育課程を全職員で確認し、各職員の子どもの像を出し合い日々につながる記録になるよう見直した。民営化4年目、地域に根ざす保育園を目指して子育て支援や町会、地域との話し合いに積極的に参加する事で少しずつ関係が深くなってきた。

さくら中央保育園事業計画の評価

① 新卒保育士の育成：研修参加等
② 法人保育士となるための研修
・重要事項の共通理解 ・保育所保育指針の理解
・保育記録の取り方 ・業務手順の理解（マニュアル）
③ 地域との連携を深める（地域通信）
④ 第三者評価に向けての学習
⑤ ホームページの開設

- ① コダーイ研究所が主催する講座や夏のセミナーに積極的に参加した。職員会議後に報告会

を行い、新人の頃より研修に参加することで保育を深めることの大切さなどを実感し、勉強への意欲が高まっている。

② 開設前より事前研修を行い、重要事項の共通理解を行った。

全員が保育所保育指針の冊子を所持し、事前研修で読み合わせなどを行い理解を深めた。

保育記録については、今後の課題である。業務手順はマニュアルを参考に行っていた。

③ 近隣の大森第三中学校とは、親子プレーダーでグラウンドを借り、中学生の職場体験を受け入れるなど交流を深めることができた。また、年長児が桐里保育園の年長と一緒に遊ぶ経験をするなど、地域の保育園とも連携をとった。地域の第三者委員協力の元、ボランティアも受け入れることができた。地域通信は年1回発行し、近隣の小学校や中学に送付した。

④ 11月に第三者評価を実施した。事前に評価機関より説明を受け、全員で勉強会を行い、理事との話し合いや確認しながら学習した。

⑤ HPは当初秋には完成予定だったが、写真等の準備に時間をかけてしまったため、2月に開設した。

4 中・長期的な経営展望

子ども・子育て関連3法が成立したことで、幼保連携型認定こども園への移行が進むことが予想される。市内幼稚園で認定こども園を併設しているのは3園であるが、すでに意欲を示している園もあると聞いており、27年度には増えるものと思われる。

国は移行を推進する方向にあり、当法人としても移行することのメリット、デメリットを検討する必要がある。

こどもクラブについては、委託契約であり、運営上当分問題はないと思われる。ただ、神指こどもクラブの児童数は減少しているが、閉鎖する予定はないとのことである。

5 入所状況

・南町保育園・どんぐり山保育園は24年度についても定員を大きく上回り、年度末には110%を超えた。

・多摩堤保育園は定員どおりの121名の入所あったが、定員を上回る入所は認められていない。

・さくら中央保育園は、定員70名のところ地方引越による転入園が多く3歳までは満杯になるが、最終的には63名の入所だった。

・謹教こどもクラブは、利用希望児童数が年々増えて80名を超えるようになり、二つに分けて保育した。・神指こどもクラブは、利用者が増えていない。

6 苦情・要望受付

南町保育園 4件

・土曜日登園について1件・産休中の登園時間について1件・保育士の対応について1件

・子どもの傷について1件

どんぐり山保育園

・怪我2件・保育士の対応について2件・保育園の行事について(1件)

多摩堤保育園 5件

・安全について(転倒防止) 1件 保育士の対応3件 子ども同士のトラブルについて1件

さくら中央保育園 7件

・食材の放射能検査をしてほしい1件 ・子ども同士のトラブルについて1件

・絵の具遊びは事前に知らせてほしい1件・個人情報について4件

7 理事会・評議員会

日時・場所	主な審議案件	出席	欠席	監事
5月25日(水) 謹教コミセン	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度事業報告及び決算報告 平成24年度補正予算(案) 管理規程の改正について 経理規程の改正について 定款変更 	評議員会 14名 理事会 7名	評議員会 1名 理事会 なし	有(2) 有(2)
12月17日(水) 会津稽古堂	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度補正予算(案) 「さくら中央保育園」定員変更 理事及び監事の選任について(新) 	評議員会 12名 理事会 6名	評議員会 3名 理事会 1名	有(2) 有(2)
12月17日(水) 会津稽古堂	<ul style="list-style-type: none"> 理事長(新)及び常務理事(新)の指名について 職務代理者(新)の選任について 	理事会 6名	理事会 1名	
3月19日(火) どんぐり山保育園	<ul style="list-style-type: none"> 補正予算(案)について 平成25年度事業計画(案)及び会計予算(案)について 就業規則の一部改正について 育児休業法の一部改正について 	評議員会 14名 理事会 7名	評議員会 1名 理事会 0名	有(2) 有(2)

8 職員会議等

職員会議が、最上位の会議であるが、そこにかかる事項で重要なものについては、リーダー会で事前に検討のうえ、提案される。リーダー会は幹部職員と各クラスのリーダーで構成される。

また、職員や児童・保護者のプライバシーに関わることや経営の根幹に関わるものについては、幹部職員による経営会議を開催する。

会議の名称	参加範囲	回数
経営会議	園長・副園長・主任・副主任(随時事務員)	随時
リスクマネジメント委員会	園長・副園長・主任・副主任 保健係・安全係	毎月1回(昼)
リーダー会議	上記メンバーと各クラスリーダー	毎月1回(昼)
定例職員会議	全職員(用務員、短時間勤務職員を除く)	毎月1回(夜)
乳幼児会議	クラス担任	毎月1回(夜)
ケース会議	関係職員	随時(昼)
幼児会議	主に行事等の打ち合わせ	随時(昼)

9 専門委員会

委員会の名称	理事定数	職員定数	備 考
苦情処理委員会			第三者への申立てなし
懲罰審査委員会	3	3	1回

10 役員の研修

○日 時 平成24年9月24日（月）～26日（水）

場 所 全国社会福祉施設経営者協議会 浜松市

参加者 金子恭也理事長

○日 時 平成25年1月31日（木）～2月1日（金）

場 所 保育所経営セミナー 東京都

参加者 金子恭也理事長

11 開園日及び延長保育について

(1) 開園日 南町保育会の規則のとおり

(2) 延長保育は午後6時より7時まで

ただし多摩堤保育園の延長保育は午後6時15分から8時15分まで

さくら中央保育園は午後6時15分から7時15分まで

12 情報公開・機関紙発行等

(1) 情報公開

4園共にインターネット上にHPを公開。係を決め、毎月更新した。

(2) 機関紙の発行

南町保育園として旧南町一丁目、同二丁目、城南通り町内会に「南保だより」を回覧した。
どんぐり山保育園についても地域の小学校、町内会に「どんぐりだより」を回覧（年2回）した。

多摩堤保育園については、地域に向けて「多摩堤通信」（月1回）を発行し、小学校3校、第三者委員2名、町会長、副町会長、児童館、出張所、郵便局、隣家にも配布。町内会掲示板にも掲示した。

さくら中央保育園には、地域に向けて「さくら中央保育園地域だより」を発行し、小学校4校、大森第三中学校に郵送。子育てひろばだより「かりん」は月1回発行し、子育てひろばに参加した家庭や見学者に配布した。

4園共に園だより、クラスだより、給食だよりを毎月発行し、保健だより、図書だよりも発行した。

13 給食及び食育

南町保育園は栄養士1名と調理員3名（常勤2名、短時間勤務1名）で給食を提供してきた。年々見た目や味の向上務めているので、児童の残食は少なく、保護者の満足度調査による評価も高いものがある。実際に、保育園を選ぶ基準に、給食やおやつによさをあげる保護者が増えている。

どんぐり山保育園は味噌の良さを再認識し、手作り味噌を試作した。畑活動では、ボランティアと

の活動が自分たちのものとなってきており、収穫の喜びにもつながっていった。

多摩堤保育園では、栄養士1名と調理員3名で提供してきた。行事の焼き芋会、バーベキューなどには力を発揮して子どもたちに喜ばれている。4園合同献立になり会津の献立で伝統料理を食べることができ喜ばれた。保護者の中にも興味をもってレシピを持ち帰っていた。

さくら中央保育園は、栄養士2名と調理員1名、(開設時は調理員2名)で提供してきた。アレルギー児が多い中で和食中心の献立は好評で、第三者評価での保護者の評価も高い。また、レシピを用意すると持ち帰る家庭が多かった。

1.4 健康・安全

(1) 健康

年2回、歯科検診と内科検診を実施したが、健康上特に問題のある子どもはいなかった。ぎょう虫検査も実施したが、陽性の児童はいなかった。

インフルエンザについて、南町保育園では散発的に発生がみられたが、どんぐり山保育園では発生はなかった。

多摩堤保育園・さくら中央保育園では、特に問題はなかった。

各園ともアレルギーを持つ児童は在籍しているが、数は多くない。多摩堤保育園では、毎年減少傾向にあり、7人から5人に減った。除去食は医師の診断書に基づいて除去食を提供している。

(2) 安全管理

各園共に避難訓練を毎月1回実施した。

設備や遊具の安全点検も、毎月1回安全係と園長、主任と一緒に園庭や園舎内を見回り行なった。また、ヒヤリハットした時は、報告書を提出するようにして、危険にはすぐに対応することにした。

不審者に対する訓練は1～3回行なった。